

# 建築形成論

## —2010年代において顕著となった建築的实践に着目して—

The Theory of Architectural Formation:

Focusing on the architectural practices that became prominent in the 2010s

学籍番号 47-206721  
氏名 木村 七音流 (Kimura, Nairu)  
指導教員 岡部 明子 教授

### 0. はじめに

#### 0-1. 研究の背景

2010年代以降、建築家は建築の設計・監理以外にも多様な活動を行うようになった。その内容は多岐に渡り、自ら施工を行うもの、店頭でコーヒーを淹れるもの、まちづくりのコンサルティングを行うもの、設計ツールを制作するものなど様々である。本論ではこうした諸活動を建築的实践と呼ぶ。こうした建築的实践は五十嵐太郎ら(2014)、松村秀一ら(2016)等いくつかの書籍において扱われているが、事例のレポート的な側面が強く、2010年代の建築の状況に関する包括的な研究は見られない。

#### 0-2. 研究の目的

本論では2010年代以降の建築的实践の網羅的な整理を通して、建築家が個々の建築物のデザインを越えて、建築の動的な営為全体に関与し、より良い社会文化環境の「形成」を促す職能へと変化しつつあること、および、建築的实践がその為の新たな建築デザイン=関係構築の技術として構築されつつあることを明らかにする。

#### 0-3. 研究の構成

本論は4章構成となっている。第一章で

は日本の建築家が2010年代に建築的实践へ向かう経緯を整理する。第二章では、建築的实践をリストアップし、クラスターに分類した上で、大きく三つの類型に整理を試みる。第三章では、建築的实践の三類型それぞれについて理論的な分析を行う。結章では、2010年代以降の建築家の状況を「形成」という概念を軸に記述する。

### 1. 建築的实践へむかう建築家たち

#### 1-1. 建築家の定義しがたさ

日本において建築家を定義するのは極めて難しい。日本の建築家は、明治期に「設計を専業とする独立した個人」という西洋の建築家像を「移植」したことから始まった。また、1950年には戦後の大量の建築需要に対して最低限の質を担保するための資格として建築士制度が導入され、建築家の位置づけは一層曖昧になった。<sup>1</sup>その結果、「建築士が建築士法にもとづく国家資格と定義できるのに対して、建築家は説明根拠となる最終審級が不在」と指摘される<sup>2</sup>ように、日本の建築家には明確で実効的な定義が存在しない。

<sup>1</sup> 速水清孝『建築家と建築士—法と住宅をめぐる百年—』(2011) 東京大学出版会

<sup>2</sup> 南後由和「丹下健三の建築と有名性—1950-60年代の専門誌・一般紙誌の分析を通して—」(2007)

## 1-2. 卓越化のゲームとしての建築家界

建設行為に関わる多様なアクターの中で建築家は建築作品の意匠性や言論の批評性を自己規定の拠り所としてきた。その結果、作品や言論を掛け金とした建築家界での評価や地位を巡る競争が生じており、社会学者の松村はこれを「卓越化のゲーム」と呼んでいる。<sup>3</sup>

## 1-3. 2010年代の建築的实践

2010年代は既存ストックの増加によるリノベーションの急増、東日本大震災による言論の状況の変化などを背景として、設計に限らない多様な建築的实践が卓越化のゲームの掛け金となり始めた。そこで建築家たちは、半ば経済的な生存戦略として、また半ば卓越化とゲームチェンジを試みて、様々な周辺領域に活動の裾野を広げた建築的实践を行うようになった。

## 2. 建築的实践の概観

### 2-1. 建築的实践のリスト化

まず、建築的实践のリスト化を行う。建築家を客観的に同定する指標が存在しない為、建築家を自称または他称している事実があるものを仮に建築家とし、彼等のうち設計・監理以外の活動を行う事例をリストアップした。また、それらと同様の活動内容の非建築家の建築的实践も加え、図1に挙げた全187の建築的实践をリストアップし、それらの活動内容が図2に挙げた28項目のうちどれを満たしているかを調べた。

### 2-2. 建築的实践のクラスター

全187の建築的实践を活動内容が類似し

ているもの毎に図3の16のクラスターに分類し、各クラスターの特徴を分析した。

### 2-3. メタアーキテクトとプレイヤー

建築的实践をクラスターに分類する中で、汎用性の高い仕組みづくりを行う「メタアーキテクト」的なものと現場に対する高いコミットメントを示す「プレイヤー」的なものの大きく2方向の志向性がみられることが分かった。「メタアーキテクト」とは秋吉浩気による概念であり、建築をつくるための環境やツール、仕組みをつくる人のことを指している。<sup>4</sup>対して「プレイヤー」は、自ら現場に立ち継続的にコミットメントを行うような人のことを指す。

### 2-4. クラスターの整理

2-2の16のクラスターをさらに整理するために図4のようにマトリクスをとり、各クラスターを配置した。マトリクスの縦軸には「メタアーキテクト—アーキテクト—プレイヤー」という軸をとり、原点であるアーキテクトから上にいけば汎用性が高くメタアーキテクト的であり、下にいけばコミットメントが高くプレイヤー的であることを意味する。また横軸にはデザイン対象物のスケールをとり、「プロダクト—インテリア—建築—境界—地域」とした。

さらに、マトリクス上での近接性をもとにクラスターを「関係づくり」「仕組みづくり」「ものづくり」の三類型に分類した。

## 3. 建築的实践の理論

前節の三類型からは2010年代の建築的实践についての重要な性質が示唆されている。

<sup>3</sup> 松村淳『建築家として生きる——職業としての建築家の社会学』（2021）晃洋書房、なおアトリエ系事務所とはいわゆる《建築家》の設計事務所である。

<sup>4</sup> 秋吉浩気「建築生産におけるオープンデザインの研究—局所分解・構成を可能とする木質三次元曲面製作技法の提案—」（2004）

### 3-1. 「関係づくり」とコレスポンド

「関係づくり」の建築的実践に共通する特徴は、プレイヤー的に現場に立って継続的なコミットメントを行うことである。そして、その中で起こる出来事の偶発性や既存の事物が持つ記憶や偶有性に影響を受けながら建築や社会関係が「出来ていく」プロセスを辿る。インゴルドの言葉を借りれば「コレスポンド」的なプロセスといえる。<sup>5</sup>「コレスポンド」とは、プロセスにおいて、周囲の物事と相互に感じあい作用しあいながら進行していくさまを表す概念であり、「関係づくり」の建築的実践の特性をあらわしているといえる。

### 3-2. 「仕組みづくり」とオブジェクティブ

「仕組みづくり」の建築的実践に共通する特徴は、汎用性の高い仕組みを作るだけでなく個別にカスタムする為の余白が積極的に作られていることである。あるシステムから生産される無数の個別な成果物をドゥールーズは「オブジェクティブ」と呼んだが、これは「仕組みづくり」の建築的実践の重要な特性である。オブジェクティブは個別に異なるが、その生成システム特有の系列性をもつことも指摘されている。<sup>6</sup>

### 3-3. 「ものづくり」とアレンジメント

「ものづくり」の建築的実践に特徴的なのは、「つくること」がそこに固有性・独自性を発生させる行為として位置付けられている点である。「つくること」は、仕組みを経由した部材や道具の助けを借りなが

らも、偶有性や偶発性を取り込んで進行するコレスポンド的なプロセスであり、「仕組みづくり」と「関係づくり」の両方の性質を持ち合わせている。ここにおいて両者は相補的な関係にある。つくられたものが喩えオブジェクティブ的な系列性を持っていても、そこには独自のアレンジメント（＝組合せ、工夫）が生じており、オリジナルで唯一無二の特質が生まれている。

## 4. 建築形成論

### 4-1. 「形成」の概念

2010年代の建築の状況には、メタアーキテクトにみられるスケラビリティのある汎用的な仕組みの希求（メタへのベクトル）と、プレイヤーにみられる個別性・地域性・多様性の希求（「今ここ」へのベクトル）という相反する2つのベクトルが働いている。これは一見、建築的実践の分極化を示すようでありながら、第3章でみたように相補的な関係にある。2010年代においては、メタな仕組みに支えられながら、現場でのコレスポンド的な実践を通して、時間をかけて人やモノの関係性の束を編み上げ、人が生きるための社会・文化・環境の複合体を形づくっている。本論ではこの営みを「形成」と名づける。「形成」とは、新たな建築デザイン＝関係構築の概念であり、プレイヤーとメタアーキテクト双方を含んだ建築的実践は「形成」のための技術として社会的に構築されつつある。

### 4-2. 「形成」の建築家

2010年代において建築家は大きく変質した。それは、建築家の職能の拡張として一般的に論じられ、卓越化ゲームのゲームチェンジに矮小化されやすい。また、建築

<sup>5</sup>ティム・インゴルド『メイキング——人類学・考古学・芸術・建築』（2017）左右社

<sup>6</sup>マリオ・カルボ『アルファベット そして アルゴリズム——表記法による建築—ルネサンスからデジタル革命へ』（2014）鹿島出版社

家本来の職能からの逃避としばしば批判されてきた。しかし、多岐に及ぶ彼らの建築的実践を類型化し考察したところ、設計・監理だけでは到達できない、よりよい有象の建造環境、無象の社会環境を求めるからこそ、動態的な建築の営為全体に関わることに踏み出したと捉えることができた。2010年代に顕著となった建築的実践は、「形成」の建築家への模索だったといえる。



図2 建築的実践の活動内容 28項目

1	まちづくりコンサルタント	6
2	設計+まちづくりコンサル	10
3	設計+不動産プロデュース	27
4	設計+ブランディング	10
5	不動産仲介	5
6	ファスト不動産	15
7	リレーリング	4
8	ノウハウビジネス	9
9	アウトドア不動産	2
10	設計+拠点運営	15
11	設計+地域活動	32
12	設計+フィールドワーク	14
13	設計+施工	12
14	設計+施工+リレーリング	13
15	設計+コンピューテーション	8
16	設計ツール・システムデザイン	5
	合計	187

図3 建築的実践の16のクラスター

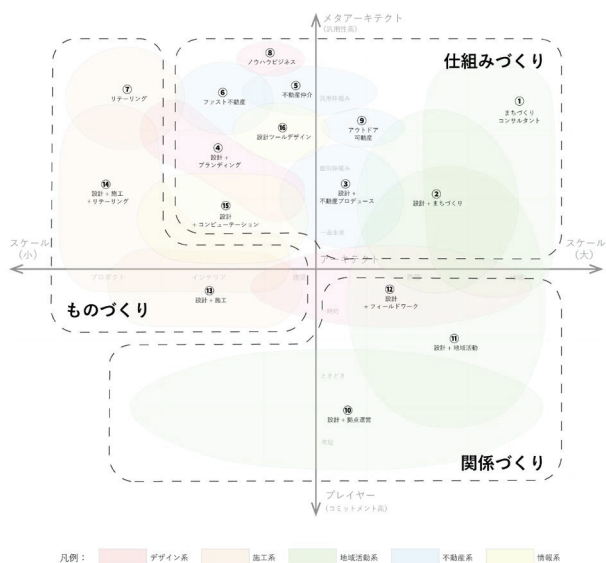


図4 建築的実践のマトリクス

1 403Architecture [dajiba]	41 総合交際建築設計事務所	81 すまいる研究室	121 HIROYUKI TANAKA Architects	161 lic-line RENOVATION LABO
2 Schemata Architects	42 ドットアーキテクト	82 mo2/architects	122 D層級舎影システム研究所	162 ADRAC
3 BUS	43 BFA	83 OSTR—級建築士事務所	123 コトダガ会事務所	163 FUJIMALABO
4 らいおん建築事務所	44 nm	84 ALTEMY	124 team STAR	164 IKDS
5 リノベリング	45 tomiio architects	85 再生建築研究所	125 東洋正統工務	165 HIROSHIMA DESIGN LAB
6 HAGI STUDIO	46 伸建築設計スタジオ	86 森田一歩建築設計事務所	126 リノベる	166 GEL
7 プルースタジオ	47 ARA	87 LUNCH ARCHITECTURE	127 建築家二人暮らし	167 SLDARE TECHNOLOGIES
8 リライト	48 成海建築設計事務所	88 水野太史建築設計事務所/水野製陶器ラボ	128 ルートエー	168 合同会社高木太事務所
9 SPEAC	49 松久美子建築設計事務所	89 岡崎倫	129 DDAA	169 AMDIab
10 tootbox	50 オンデザイン	90 NO ARCHITECTS	130 Drop	170 Atomos/実下内久
11 東京R不動産	51 PERSIMMON HILLS architects	91 シーンデザイン—級建築士事務所	131 向こう三軒両隣	171 スタジオナラ
12 OFEN A	52 スタジオまめちやうだい	92 medicala	132 IN STUDIO	172 ATLV
13 住得機ジャパン	53 ARCO Architects	93 設計事務所助昇平	133 OF THE BOX	173 24d-studio
14 アーツアンドクラフト	54 ICHIKAWA RYUGO STUDIO	94 Ivoll architecture	134 Shikimami Kazuya Architectural Laboratory	174 TOSHIKI HIRANO DESIGN
15 モクケン企画/CHAi	55 NoMaDoS—級建築士事務所	95 ASTER	135 建築設計わななべ	175 sunayama studio
16 ReBITA	56 I TECTURE	96 坂東義輔建築事務所	136 teco	176 DOMINO ARCHITECTS
17 HZDO—級建築士事務所	57 Suppose Design Office	97 藤村義雄建築設計事務所	137 小大建築設計事務所	177 ラクジ。建築と不動産
18 ルーヴリス	58 つばめ舎建築設計	98 A-MANO DESIGN	138 駒田建築設計事務所	178 WELLNEST HOME
19 plan A	59 リノデュース	99 建太工務	139 フォーシェアーキテクト	179 ifif
20 流動商店	60 コロコロワ/佐藤研高建築設計事務所	100 プライム建築都市研究所	140 o+h	180 松尾設計室
21 STUDIO AHARE	61 WORKVISIONS	101 アトリエ工入	141 studio on site	181 しばたまる
22 HandiHouse Project	62 あみやカンパニー	102 blueio建築事務所	142 スタジオバクテリア	182 あすなろ建築工房
23 まめくらL	63 関戸大和 (kapok)	103 多田正志アトリエ	143 DABURA.m	183 株式会社Mx構造設計
24 YADOKARI	64 ReBuilding Center Japan	104 藤亦丸心建築計画	144 abanba	184 宇野宏明建築事務所
25 ノンノバ	65 株式会社BOKU/maao	105 SWAY DESIGN	145 新井千秋都市建築設計	185 かみいけ木質文化ネットワーク
26 ツクルバ	66 水辺紀綱	106 PAAK DESIGN	146 平田亮久建築設計事務所	186 nendo
27 創造系不動産	67 ミユキデザイン	107 Mosaic Design Inc.	147 環境デザイン研究所	187 秋篠泰行建築設計事務所
28 studio L	68 Kakasuide	108 アキタイガーデン・スタジオ	148 木内建築計画事務所	
29 第3組/DecoTokyo	69 アドスバイス	109 about you cly	149 高橋大志研究室	
30 DIF FACTORY	70 PAK	110 architectural design market	150 門脇南三研究室	
31 RESTA	71 ルノスタジオ	111 大井俊由建築設計事務所	151 住まい。まぐづり/リデザインワークス	
32 アキタサキアーキテクト	72 Studio Tokyo West—級建築士事務所	112 岡田拓太郎建築デザイン事務所/簡事合同会社	152 lodoge	
33 空家レンジャー	73 美智空間	113 upstelter architects	153 PEA—/混合建築設計事務所	
34 東京ノバ	74 グランドレベ	114 SIA	154 住宅建築設計事務所	
35 VULUD	75 タムナムデザイン	115 1-3 Architects	155 小室下野建築設計事務所	
36 Room Clip	76 合同会社工作社	116 kurotsawa kawara-ten	156 ノームビルアーキテクト	
37 つみぎ設計物工社	77 スターノイロット	117 R/URBAN DESIGN OFFICE	157 ASE建築設計事務所	
38 KUMIKI PROJECT	78 竜崎	118 Eureka	158 G ARCHITECTS STUDIO	
39 ツバメアーキテクト	79 竜崎義輔建築設計事務所	119 ROOM 810	159 山崎生建築設計事務所	
40 NOUSAKUJUNPEI ARCHITECTS	80 建築家不動産	120 9 (nine)	160 u company/JAM	

図1 建築的実践のリスト (全187事例)